

令和 4 年度埼玉県障害者施策推進協議会  
第 1 回ワーキングチーム（A チーム）会議メモ

令和 4 年 7 月 1 3 日（水）14:00-16:00  
埼玉県福祉部会議室

参加者：佐藤委員（リーダー）、民谷委員、福嶋委員、関口委員、小野寺委員  
欠席者：宮野委員、高野委員  
他チーム参加者：なし  
オブザーバー：西村氏  
傍聴者：なし

次第 1 委員自己紹介

各委員から自己紹介を行った。

次第 2 ワーキングチームサブリーダーの選出について

関口委員の推薦があり、他メンバーからも異議がなく、関口委員をサブリーダーに決定した。

次第 3 令和 3 年度ワーキングチームの進め方について

事務局)

～資料「令和 4 年度におけるヒューマンライブラリ（仮称）の検討について」を説明～

- 埼玉県の「広域性」、「発信力」、「信用力」といった視点から、現在、県内の複数地域で個々に取り組まれている障害当事者による講演等の取組の「相乗効果」が生まれるような連携方法を考える。」
- 「後述の「2 県内の福祉教育関連団体による取組の現状」に記載されている、県内の実態を踏まえて進める。」  
この 2 点に基づき検討を行っていただきたい。

～資料「令和 3 年度 埼玉県障害者施策推進協議会ワーキングチーム（A チーム）」

## 検討概要」の説明～

佐藤委員)

ヒューマンライブラリー（仮称）を中心に検討を進める流れになる。委員の皆様から確認等あるか。

また、本来、「理解を深め、理解を守る」という大柱についても検討課題であるが、この部分の内容についても何かあれば御意見をいただきたい。

委員)

意見なし

## 次第４ ワーキングチームの検討課題について

佐藤委員)

では、ひとまずこの流れで進めていくこととする。

以下、検討課題について

- ・ヒューマンライブラリー（仮称）の名前を決めること。  
→日本ヒューマンライブラリー学会の傘下に与する事業という誤解を招く可能性があるため、そのままでは使えない。当事者が、自分から発信をして、障害理解について進めていくことがヒューマンライブラリー（仮称）のポイントである。
- ・障害理解を、一般の人に理解してもらうようにするにはどうしたらいいか。また、小中学生たちを対象に、障害理解を進めて欲しいという意見もある。
- ・医学モデルの視点から社会モデルの視点に変えることが重要である。
- ・差別解消法の中で合理的配慮が、民間も義務となることにも重ねるべきである。
- ・県社協、市町村社協、あったかウェルねっとやDETT埼玉など既にあるものを、上手に生かしていくことが現実的だと考える。

令和３年度に議論したことも踏まえ、ヒューマンライブラリー（仮称）を含め、障害者への理解促進と差別解消について、改めて、御意見があればお願いしたい。

小野寺委員)

モニタリングの会議でもあるが、ここでは、ヒューマンライブラリー（仮称）について重点的に検討するということか。

施策番号７のケアラーに関することや３６ページの障害者権利条約の批准や障

害者差別解消法などについて、問題意識を持っている。また、障害者に対する偏見差別の根っこは、旧優生保護法だと考えている。このような部分についてもモニタリングし、話し合うことで、次の施策に繋がると思う。

佐藤委員)

昨年度はヒューマンライブラリー（仮称）について重点的に議論を行っていた。しかし、次期計画に向けて重点課題の御意見もいただきたい。時間を上手に使いながら、セットで検討していけたらと思う。

小野寺委員からの意見のように、皆様からも意見を頂ければと思う。

小野寺委員)

障害者支援計画 38 ページ 虐待の防止について

今年から事業の運営規定、県のモデル運営規定で義務化された。グループホームの数は増えているが、質の問題が問われている。くらしの部分と被ってくるところもあるが、注視しなければいけないところだと思う。このような部分などについて、現状などの情報交換をして、次の施策で強化しなければならない点を固められればよい。もちろん、ヒューマンライブラリー（仮称）も進めつつ、計画内容にも触れていきたい。

佐藤委員)

他に何かあるか。

関口委員)

障害者権利条約については、条約に照らして、県として必要なことの整理がなされるべきだと思う。

また、旧優生保護法については、相談支援や周知、優生思想の考え方についてどのように考えているかなど整理が必要だと思う。

わからない点がある。第6期計画の細かい部分の文言整理をするということか。

佐藤委員)

小野寺委員がおっしゃったように、現状の共有をし、今後進めていく上で、維持でよいか、取組を強化するべきかを決めていくということである。

小野寺委員)

次のクールに向けて、「このような意見があった」と伝えるくらいのまとめ方でよいと思う。ヒューマンライブラリー（仮称）もあるので、深掘りまではしなくてもよいと思う。

佐藤委員)

第6期計画の内容についても、もう1度確認するという事で、小野寺委員や関口委員からあったようなケアラー支援、障害者権利条約、虐待、旧優生保護法などを注視していく必要がある。

民谷委員や福嶋委員は何かあるか。

福嶋委員)

ヒューマンライブラリー（仮称）を中心にして進めていくということで理解した。ヒューマンライブラリー（仮称）については、ケアラーなど当事者に関わる人の話もコンテンツに含められるのではと思った。

佐藤委員)

従来は、障害当事者というよりは、周りで支えている・関わっている人たちを中心として障害者理解の推進がされてきたが、このヒューマンライブラリー（仮称）では、当事者が中心の発信であることに意味があると考えている。両側面が大事である。

民谷委員)

もしかしたら的外れな発言になってしまうかもしれないが・・・

新型コロナウイルス感染症の影響で、施設での利用者に対する行動や発言の制限が増えている。「これは虐待では？」と思うような部分もある。しかし、家族の立場としては、預けたいという思いもある。家族がどこまで知っているのか、伝えられている情報にもブレがあるのでは、ということが1つ。

ヒューマンライブラリー（仮称）の「障害当事者」について。車いすなどの身体障害の方は目に見えるが、精神障害の方などは目に見えない。どのように話を進めていくのか、疑似体験のようなものもできないため、イメージがつかない。

佐藤委員)

精神障害の方などについても伝えられるように考えることが、このヒューマンライブラリー（仮称）の課題でもあるため、貴重な意見である。

関口委員は精神障害に関して、取組の意見など何かあるか。

関口委員)

精神障害は目には見えないため、語りで伝えていくしかない。そういった意味で、ヒューマンライブラリー（仮称）は非常に貴重な仕組みである。

佐藤委員)

相手にも聞く力が求められるため、低学年などを対象とすることは難しいのではないかと。中高生くらいでないと、理解ができないのではないかと。そういった面から、対象者をどのようにするか？という課題が生じる。

逆に、車いすや視覚障害などは、体験とセットにできるため、小学校低学年からでも理解がしやすい。

プログラムを立てていく上で、障害者の方とどのように関わりながら講義を行うかも重要となる。発達障害の場合は、困っていることなどをいろんなツールやタブレットを用いて伝えるなど。県社協などでもそのあたりは実践・蓄積されているため、生かせるのではないかと。また、あったかウェルねっとのHPでも、学習プログラムがある。このような既にあるものを上手に利用し、機能させていくことがプラットフォームづくりの1つになると思う。

では、小野寺委員から、4点（ケアラー支援、障害者権利条約・差別解消法、虐待防止、旧優生保護法）の御意見をいただいたということで、メモにも残していただきたい。そこに関連するところで、もしお気づきの点があれば、付け加えられるようにしたい。計画内容とヒューマンライブラリー（仮称）については、セットで進めていくということでよいか。

委員)

異議なし

佐藤委員)

では、次にヒューマンライブラリー（仮称）の内容に入る。

～十文字学園女子大学公開講座の配布資料について～

「障害当事者の立場から地域でともに生きるために シンポジウム」を開催する。本来、1企画1日でやることになっているが、ヒューマンライブラリー（仮称）の取組の関係で、2回に分けて実施させてほしいということで、了解を得て進めている。

～内容の説明～

これを、ヒューマンライブラリー（仮称）の実証実験の場の1つとしてもよいのではと考えている。皆様にも参加していただければと思う。この時に、県の取組については私から説明し、参加者から御意見等いただけるような形を取れたらよいと思う。

事務局からあった「人材育成」や「実証実験」については、ここで少し取り組めたらよい。逆に、皆様から場の提供ができるものがあれば、呼んでほしい。

プラットフォーム形成については、これを基本に、何か御意見があればお願いしたい。

関口委員)

あったかウェルねっとやD E T埼玉は、どのように運営しているのか？助成等受けているのか？

佐藤委員)

あったかウェルねっとは、研修などの業務委託を受けていることもあるが、基本的には手弁当である。

事務局)

D E T埼玉については、自治体等から助成を受けているか確認はしていない。メンバーの方々は本業を持ちながら障害当事者としての活動をされているため、有志の集まりである。また、講習会のファシリテーターの認定を受けている方が講習を行っている。

佐藤委員)

これらの組織は、話す訓練をした上で、講習等を行っている。昨年度の議論でも出たが、障害当事者が単に話すだけのものではない。特に、子供たちにとっては、一度受けた話が全てになりやすい。多様な中の1人だということを理解してもらえるように話す必要がある。そのために、子供たちにどのように伝えるかを考えなけ

ればならない。

あったかウェルねっとでは、「福祉教育・ボランティア学習推進員養成研修」というものが過去にあった。学校向けプログラムと地域向けプログラムで勉強をする。座学と演習（５日～７日）をし、終えた人は実際に学校等で講習会を実施できる形で進められていた。ＤＥＴ埼玉でも、全国組織で講習の資格を受けた人が話せる形をとっているということである。ただ、種別が全部網羅されているわけではないことや、人数がまだ少ないことから、過渡期である。

昨年度の検討では、人材の部分で、「どのようなレベルにするのか」、「それを誰がどのように見極めるのか」といった課題も挙げられていた。

このあたりを含めて、舵取りは誰が行うのか？という課題も生じる。既存のものを生かすことで、プラットフォームの中で「県が関わる部分」「県社協が関わる部分」などを決めるのがよいのではないか。逆に、皆様から新たな追加部分があればぜひ教えていただきたい。また、構成内容に案があれば出していただきたい。

関口委員)

様々な障害分野、それぞれの語りがあると思う。それらを集約できるシステムができたらいと思う。

県政出前講座というものがあると思うが、どのようになっているのか？各セッションで依頼があれば出すという話か？

事務局)

とりまとめは県民広聴課で行っている。県ＨＰに一覧表のようなものが掲載されており、各課に依頼があった際に、職員を派遣し、お話をさせていただく仕組みになっている。

関口委員)

プラットフォームとして、「こんなことが提供できます」という窓口・入口でもよいのではと思う。

佐藤委員)

それをどこに載せるのか？仕組みを作るためのシステム・ＨＰを誰が作るのか？という課題がある。

関口委員)

県政出前講座の中のメニューに入れていただくとか・・・

事務局)

本日お配りしている資料のスケジュール表を御覧いただきたい。そこに、「ホームページ案」とある。これは県HPを想定している。県HPは、職員1人1人が個別に作成できるようになっている。予算確保が難しい中で、代替案を考えたとき、県HPを活用する他ないと考えている。

佐藤委員)

図表の中央部分「ライブラリー」の部分を作るのは、県ということか？

事務局)

他に誰も手を挙げなければ、その方向になるかと思う。例えばの話だが、社協のHPを利用させていただく・・・などの話が出ない限りは。

佐藤委員)

県社協でも、独自に福祉のプラットフォームを推進している。運営の協力については、既に現部長に話はしていただいているが、事務局間でしっかりと話を進めていただく必要がある。すんなりとHPを利用させていただくことは難しいかもしれないが、何かしらの可能性はあると考える。

事務局)

県社協に限らず、他に手を挙げるところがなければ、県HPの活用になると思う。

佐藤委員)

(HPの作成に限らず)県行政と県社協間の話はしっかりと行っていただきたい。県社協も福祉教育の推進・養成を行ってきたが終わってしまい、あったかウェルねっとの修了生任せになっていた面もある。しかし、埼玉県社協の取組をモデルにして、全社協で新たに全国研修の取組が始まった。そういった経緯から、今は協力していただくには良い機会かと思う。交渉の仕方にもよるかと思うので、私も繋ぐようなことを含めて何かできればよいと考えている。

現実的な話でいえば、県HPを作成し、中身づくりに県社協の力を貸りられれば



と思う。また、県社協の方が市町村とのパイプも深いことから、そこを利用して発信できるようになればプラットフォームが機能するのではないかと思う。

また、施設関係の委員を通して、広報活動などできることがあれば、是非お願いしたい。

関口委員)

是非協力したい。

佐藤委員)

絵(資料)にある市町村の障害福祉担当についてだが、県から協力依頼はできるのか。

事務局)

(※市町村社協と取り違えた回答)

可能ではあると思う。しかし、やり方として、県の社協を通さない方法については判断しかねるところである。この絵(資料)についても、これから議論が深まるにつれて、変更していかなければならないと考えている。

佐藤委員)

委員の皆様から、進め方について何か意見はあるか。

関口委員)

県社協、あったかウェルねっと、DE T埼玉などとの調整は誰がするのか？

事務局)

ここで議論しまとまった内容に沿って、事務局が行うことになると思う。結果として、それを相手側が受け入れてくれるのかという問題はあるが、調整は事務局の役割と考えている。

関口委員)

相手側にワーキングに来ていただいて、意見交換することはできるのか？

佐藤委員)

それができればよいと思う。例えば今日、プラットフォーム形成の内容を決め

た上で、事務局に調整してもらい、次回 11 月 15 日に進め方の協議ができれば現実的になる。

事務局)

現時点では、外部の人を会議に招く際の報酬の扱いなどの確認が必要なため、はっきりとした回答ができない。

佐藤委員)

向こうも福祉のプラットフォームを進めているところであることから、win-win の関係になるよう話を進められればよいと思う。また、私も調整し、話をまとめられればと思う。

事務局)

依頼調整をするにあたり、依頼内容をワーキングの場で決めておかなければならない。具体的にどのような役割をお願いするのかを詰めておかなければならないと思う。

佐藤委員)

いったん今までの話を少し確認する。

- ・「障害者の理解促進と差別解消」として、障害当事者が講師となって話す機会を作る。まずは子供たちに伝える機会として推進する。→これらを作る上で、プラットフォームを形成していく。

- ・プラットフォームに乗っかっていただく形として、県社協、あったかウェルねっと、市町村社協、DET 埼玉に協力していただくこと。

- ・委員の皆様を通じて、施設・団体関係の方たちにも理解を得て、乗っかっていただくこと。

→以上から、プラットフォーム関係者が増え、幅が広がることを考慮しながら、どのような内容に固めていくかを議論する必要がある。11 月 15 日には内容部分（役割分担、講演方法・内容など？）を議論できるようにする。

- ・運営方法として、県 HP を利用すること。これについては、県社協など協力していただける方が他にあれば検討すること。

- ・講師に関しては、手弁当でも対応していただけるのか。→ヒューマンライブラリー（仮称）の意味・意義に共感していただくことが必要。委員の皆様を通して、各当事者団体の方たちの理解・協力を得ることが必要。

※この後に、人材育成の課題は生じるが・・・。D E T 埼玉やあったかウェルねっとのノウハウを教えていただいて、どんな形で進めるのがよいかを検証することは可能だと思う。

関口委員)

何を実証検証するのか？この仕組み自体を実証検証するのか、当事者の話す内容等について実証検証するのか（アンケートを取るなどして）。

事務局)

実証実験については、昨年度既に今年の実施事項として提示されているため、スケジュールに入れているが、内容については決まっていないものである。

佐藤委員)

その内容を考えていく・機能させていく作業をここで委員の皆様と行うものである。

あとは県教育委員会にも入ってもらうことが大事だと思っている。県教委が心のバリアフリー学習指導要領に沿ってどのように進めるのかという点で、こちらも協力できる旨交渉するなど。そのあたりは事務局で交渉していただければ有難いし、私が間に入ることも可能である。

事務局)

第1回本会議でも、県教委に動いていただくことが重要だという御意見があった。少なくとも、今年度以降はなるべく県教委との連絡は密に進めていければと考えている。

佐藤委員)

役割分担含め、まとめる。

・県・・・プラットフォーム形成の総括。場合によっては、ライブラリーになるようなHPを県HPで作成。関係機関との連携交渉。

・県社協、あったかウェルねっと、D E T 埼玉・・・研修機能などノウハウを教えていただく。

以上のようにし、障害者理解の促進と差別解消を進めていくうえで、プラットフォームを形成し、この絵（資料）を1つのベースとして進めていく流れで御了解いただけるか。

委員)

異議なし

佐藤委員)

次回ワーキングでは、できれば関係者の方に来ていただいて、実際の方法等を聞かせていただきながら、プラットフォームの内容を具体化していくということによいか。

また、実証実験の実施については、今年できるのか？という懸念点がある。実際に、それぞれの企画は1年前から準備がはじまる。本来はどのような取組ができるかを皆様と考えた上で実証実験をしなければならないが、ひとまず今年度、先ほど紹介したとおり、私の大学で開催する公開講座について企画した。ここでは、まず障害者理解に繋がるかどうかを確認したり、内容の意見をいただくための「プレ実証実験」のような形にする。そして、今年度のワーキングできっちり整理したものを生かして、来年度（令和5年度）に実証実験をするということによいか。

他にも、心のバリアフリー事業の一環で、学校が当事者の方を呼ぶ機会があり、1つの実証実験の場になると考えられる。とはいえ、年度内には難しい面があるため、今年度、しっかりと協議してから来年度に実証することがよいと考える。

このような流れで、スケジュールと必ずしも重ならない面もあるが、進めていくということによいか。

委員)

異議なし

佐藤委員)

事務局へ

- ・ワーキングメモを作成。→委員に確認。修正又は意見追加。
- ・今回の議論を踏まえて資料を修正し、委員に確認。第2回本会議までに関係機関に情報共有すること。※ワーキングメモが完成してからでも、同時に確認でもどちらでもよい。
- ・関係機関には事務局から調整してもらい、11月15日の場に参加してもらえよう交渉すること。

事務局)

承知した。

会議に参加してもらいたい関係機関は、県社協、県教委、あったかウェルねっと、D E T 埼玉か。

佐藤委員)

そうである。計画内容について触れる時間も考えると、11月15日と1月11日に2団体ずつ分けてもよい。

事務局)

ワーキングに外部の方(県社協、県教委、あったかウェルねっと、D E T 埼玉)に参加していただくよう調整した結果、同意が得られなかった場合はどうするか。

佐藤委員)

その場合は仕方がない。参加していただけるのが一番よいが、協力は可能といった回答が得られればよい。

事務局)

承知した。

佐藤委員)

皆様から御意見があればお聞かせいただきたい。

民谷委員)

来ていただくことは難しいのではないかと思います。協力していただきたい内容を伝えて、協力できる旨回答をいただければよいのではないかと。

佐藤委員)

取組内容については、事務局にペーパーを作成してもらい、それを委員の皆様を確認していただいた上で、事務局が県教委に交渉しに行く。名前が入ってるけど、具体的に何やるの?という話も出るかと思うが、そこは交渉していただいて。

事務局)

「一堂に会して議論する方法」と「この場でワーキングメンバーが関係機関の役割をはっきりと決めた案を事務局が相手方に伝えた上で、検討してもらう方法」が

ある。前者の方がよいのか。

佐藤委員)

こうしたものをみんなで進めたいと考えている旨伝える→関係機関の取組を聞かせていただく→生かせるもの・協力いただけるものの協議をするという流れで進めるのが良いと考える。

win-winの関係が成り立つよう、交渉する。相手の話を聞いてから、相手が進めていきたいものに協力する形をとったり、まだ何も決まっていないようであれば、こちらの取組内容を提示し乗っかってもらう形をとる。対等な立場で交渉することで、相手の考えが見えると思う。

民谷委員)

「協力できることはしますけど・・・」といった感じで終わってしまうのではないかと懸念している。その前に、事務局から伝えたときの感触を教えていただければ、具体的にどのような方向性にするか決められるのかなと。

佐藤委員)

ヒューマンライブラリー（仮称）を実現させるためには、必要な作業である。事務局に先方の受けとめ方について感触を見ていただき、懸念点に配慮しながら、どのように伝えていただくかはお任せするところである。

事務局)

それでは今日のところは、ワーキングでそのような進め方・案が出されたということでお預かりする。

佐藤委員)

もし他の委員の皆様があまり無理しない方がよいとの意見であれば、教えてほしい。

関口委員)

どのようなステップを踏むのがよいか、というところか。

事務局)

そうである。いずれにせよ、協力は必要なところであるため、アプローチはしな

なければならない。その方法の話である。

関口委員)

まずは、ざっくりと説明し、「御協力お願いします」という柔らかい感じでスタートするのか良いかと思う。きっちり作ったものを示す方法は難しいのではないか。

事務局)

ちなみに関係機関へのアプローチについては、既に前年度に実施済みであり、関係機関はヒューマンライブラリー(仮称)の概要について把握している状態である。

佐藤委員)

もし来ていただくことが難しいようであれば、事務局の方で聞いてもらい、その結果を報告してもらう方法になる。実効性があるかはわからないが・・・。

関口委員)

相手側から、私たち団体をお願いしたいことや協力してほしいことがあれば、こちらもち帰って検討することができると思う。提案等もできるかと思う。

お願いできることとそうでないことを見極めるためにも、相手の話が聞きたい。

佐藤委員)

各関係機関あての交渉方法案として、

県社協・・・既に進めているプラットフォームについて、障害福祉分野としても同じ考えを持っていることから、互いに協力し合えないか提案。

県教委・・・心のバリアフリー学習指導要領に沿って進めていく上で、当事者の話の機会を作るのであれば、一緒に作っていく・考えを共有することができないか提案。

あったかウェルねっと・DE T埼玉・・・既に活動されている団体のため、ノウハウを是非御教授いただきお力を貸していただきたいこと、さらに障害者理解に努めていきたい考えを共有。

・関係機関・団体に来ていただくにあたり、2回に(11月、1月)に分けていただくこともあり。

・実証実験については、来年度に実施する。※今年度の十文字学園女子大学の公開講座はプレ実施の位置付けとする。

ということで、関係機関には、来ていただくよう交渉してもらおうということでしょうか。

委員)

異議なし

佐藤委員)

では、民谷委員がおっしゃったとおりの結果になる可能性もあるが、それぞれが踏み出してこの場に来ていただけるのであれば、お願いしたいと思う。

また、もう1つの課題として、名称をどうするか。今まで出た案もワーキングメモと一緒に共有していただきたい。皆様にも考えておいていただければと思う。

では、本日のワーキングは以上とする。

○ 以下、令和3年度に候補として挙げられた名称

- ①ひとひと講座
- ②ひとひと対話講座
- ③障害を知ってもらい隊
- ④「障害ってなんだろう」や「障害って多様」ということが伝わる名称
- ⑤Diversity gallery (ダイバーシティ・ギャラリー)
- ⑥彩 (いろどり) ライブラリー
- ⑦もっとあなたを知るライブラリー